

みんながやさしい部門



〈最優秀賞〉
株式会社 丸井
博多マルイ

「すべてのお客様にとって 居心地の良い店づくりの取り組み」

ユニバーサルデザインやLGBTに関する社内研修を実施し、接客レベルの向上を図るとともに、「みんなのトイレ」の各階への設置や電動車いす用の充電スペースを設けるなど、ソフト・ハードの両面から店づくりに取り組んでいる。



選考理由

- 他の企業の参考となる取り組みであり、特にLGBTに関しては、福岡に根付かせていくきっかけとなることが期待される。

「ユニバーサル都市・福岡賞」選考部会 委員名簿(敬称略)

部 長	関根 千佳	株式会社ユーティット 会長/同志社大学大学院 客員教授
選考委員	シグナル・プルソタム	非営利団体福岡ネパールソサエティー 会長
選考委員	張 彦芳	4 ALL design 代表
選考委員	中芝 晋人	福岡商工会議所 事務局長
選考委員	中原 義隆	NPO法人福岡市障害者関係団体協議会 理事長
選考委員	松浦 恭子	弁護士法人女性協同法律事務所 弁護士

ユニバーサル都市・福岡について

ユニバーサル都市・福岡とは、ユニバーサルデザインの理念に基づいた、誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまちのことで、福岡市は、みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」をまちづくりの目標像として掲げ、市政の柱の一つとして推進しています。



ユニバーサル都市・福岡
UNIVERSAL FUKUOKA CITY

福岡市総務企画局企画調整部

〒810-8620 福岡市中央区天神一丁目8-1
電話:092-711-4408 FAX:092-733-5582
E-mail:kikaku.GAPB@city.fukuoka.lg.jp

HP ユニバーサル都市・福岡 検索 UNIVERSAL FUKUOKA CITY SEARCH f ユニバーサル都市・福岡

2017年11月発行

UNIVERSAL FUKUOKA CITY AWARD 2017



みんながやさしい、みんなにやさしい
ユニバーサル都市・福岡賞2017
受賞者のご紹介

ユニバーサル都市・福岡賞とは？

福岡市では、誰もが思いやりもち、すべての人にやさしいまち「ユニバーサル都市・福岡」の実現に向けて、様々な取り組みを進めています。この「ユニバーサル都市・福岡」の考え方を、市民の皆さんがもっと分かりやすく身近に感じることができるように、福岡市内でユニバーサルデザインの考え方に基づく優れた取り組み、誰もが使いやすい製品、分かりやすい情報発信などを行っている個人・団体・企業などを表彰するものです。

みんながやさしい部門

ユニバーサルデザインの考え方に基づく優れた取り組みやそのアイデア



たとえば…
社員みんながサービス助士の資格を取得して行う、きめ細かなサービスなど

みんなにやさしい部門

ユニバーサルデザインの考え方に基づく優れた製品開発、施設(店舗)整備、情報発信(概ね5年以内に行われたもの)やそのアイデア



たとえば…
通路やエリアにテーマカラーを設けて、初めて訪れた人でも現在地や目的地が分かりやすい施設など

選考委員より

「ユニバーサル都市・福岡賞」選考部会 部会長

関根 千佳(せきね ちか) 株式会社ユーティット 会長/同志社大学大学院 客員教授

福岡のユニバーサルデザインは、次第に市民に根付いてきたようです。今年の応募は、たくさんの社員や市民が参加しながらユニバーサルデザインを実現しようとするものが評価されました。「博多マルイ」の取り組みは、LGBTなど多様な人への理解を深め、サービスのレベルを上げていくのですが、福岡のすべての小売店や飲食店で当たり前になってほしいです。「なごみの家」の取り組みも、もし市内の中学校区に一つずつ存在していたら、嬉しい場所ですね。「ミニふくおか2017子ども実行委員会」は、子どもたち自身がユニバーサルデザインを理解し推進するとう点が評価されました。アイデア賞は初の受賞でしたが、夢あふれるステキなユニバーサルデザインの可能性を感じます。これからも、当事者性を大切に「ユニバーサル都市・福岡」の取り組みが進んでいくことを期待しています。





みんながやさしい部門

〈審査員特別賞〉
ミニふくおか2017
子ども実行委員会



みんながやさしい部門

〈優秀賞〉
特定非営利活動法人
なごみの家



みんなにやさしい部門

〈アイデア賞〉
九州大学大学院
森山 陽介さん



みんなにやさしい部門

〈アイデア賞〉
アールト大学
Yuzhou Wangさん

「子どもがつくるまち ミニふくおか」

ユニバーサルデザインについて事前学習を行い、当日は、案内窓口や店ごとにマークを作成し設置するなど、だれでも参加しやすい工夫を取り入れた、子どもたちがつくる3日間の仮想のまち「ミニふくおか」を実施した。



選考理由

- 次の時代をつくる子どもたちが、ユニバーサルデザインについて学び考える機会をつくる良い取り組みである。

「コミュニティスペース 『しかたの茶の間』」

四箇田団地地域住民のニーズを受け止め、小規模多機能ホームに併設して、気軽に利用できる休憩所や子どもの学習スペースのほか、怪我の応急処置や介護相談などを行う、地域に密着した拠点づくりに取り組んでいる。

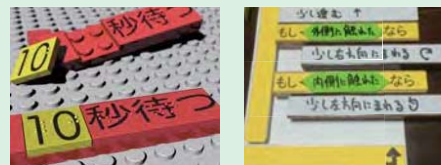


選考理由

- 地域課題を的確に把握し、その課題に適した取り組みとなっている。

「フィジプロ」

パソコンでの操作ではなく、点字を付加したブロックを使用することで、視覚障がいや集中を持続させにくい子どもなども一緒にプログラミング学習ができる教材を考案。



選考理由

- 視覚障がい者なども一緒に授業を受けられる工夫がみられる。

「触覚を用いた絵本」

レーザーカッターで感覚的に理解できる凹凸をつけ、視覚障がい者や子ども、国籍を問わず誰もが楽しめる絵本を考案。



選考理由

- 考え方が新しく、面白いアイデアである。